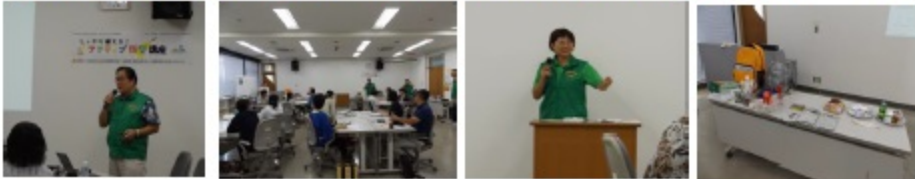


事業報告書

【しっかり備える！アクティブ防災講座】

日時	平成 29 年 9 月 9 日 (土) 14:00~16:00
目的	受講後に参加者が具体的な防災アクションを起こすことを目的に、家族で最終避難場所を決め、緊急連絡先、非常食の見直しなど防災を学ぶ。
対象	関心がある方
講師	新城 格 氏 (NPO 日本防災士会沖縄県支部支部長) 新垣 すみえ 氏 (NPO 日本防災士会沖縄県支部事務局長)
会場	沖縄県男女共同参画センターていする 3 階 研修室 1・2
定員	40 名 [申込者数 20 名]
参加者数	16 名 (男性 4 名 ・ 女性 12 名)
講演内容 (概要)	<p>第一部 防災意識を高めるには、地震や津波、台風やその他の災害のリスクについて「イメージ」出来なければ対応策を講じることができない点や、災害対応の基本は「住んでいる地域を知る」、「災害を知る」、「私たち自身を知る事」から防災を高めると話した。</p> <p>地震は同じ場所で繰り返し起こっていると防災白書からの資料を紹介し、日本列島は常に地殻変動が起こっており、列島のどこかで地震が起こっている事、沖縄県内でも大地震のリスクがあること、起こりうる災害に対して沖縄県民の意識が低いことを警鐘した。</p> <p>被災地等でのボランティアの基本として、ボランティアを行なう人は「保険に加入する事」、「現地での宿泊先は自分で確保する事」と話し、関連して被災地に物資を送る場合は役所を通して行い、物資の場合には、人手が足りず山積みになっている事もあるため、一番はお金を送る事が良いとも語った。災害のリスクをゼロにする事は難しいが、講師の住んでいる地域の自主防災会を紹介し、毎週の防災訓練等で備える事、被害を少しでも小さく出来る事、人と人のつながりが低い地域は災害に弱い事を話し、自主防災会の大切さや必要性を伝えた。防災グッズとして、ツナ缶で作ったランプ、新聞紙でできるスリッパを紹介し、非常時の食料 (缶詰のツナ・ポーク・味噌・お米) は普段から使用しているもので十分であること、沖縄県は缶詰文化があり、災害時には缶詰が非常食になるとアドバイスした。避難については、過去の阪神淡路・東日本大地震の映像を視聴し、割り切れない人倫の問題もあるが、災害時には自分を守る事を優先すること、津波などが来た場合には、逃げる事が第一であると伝えた。避難所運営には責任者又は副責任者スタッフに女性を配置し、プライバシーの配慮を女性の視点を入れる重要性を話し、日頃からの地域の住人とのつながりやコミュニケーションの力が防災に繋がると語った。</p> <p>第二部 クロスゲーム (防災ゲーム) に参加し、カードに書かれた事例を YES か NO で災害対応を考え、自らの問題としてゲームを通じて異なる意見・価値観の存在への気づきも得ることができた。防災グッズとして新聞紙で簡易スリッパを制作し、楽しみながら防災を学んだ。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・私も含め、防災に対して、意識が低いので、今回の講座でならった事を職場でも広めていきたいです。 ・とてもわかりやすい説明でした。書籍や防災 book の情報もとても役に立ちました。 ・家で、地域で、できることを少しずつ実践していきたい。ありがとうございました。 (一部抜粋)
写真	
主催等	沖縄県・(公財)おきなわ女性財団